

Aさん 進学先→金沢大学医薬保健学域医学類

1 志望校決定の過程

私が金沢大学を意識したきっかけは、高校1年生の時に家族で金沢へ旅行したことです。金沢の歴史ある落ち着いた雰囲気に関心されました。その後金沢大学について調べる中で、“国際性”と“研究”に力を入れていると知りました。特に研究については、洛北でのSSHの様々な取り組みを通して非常に関心を持っていたので、金沢大学を志望校の一つにしました。京都から近いという理由で神戸大学を第一志望にしていたのですが、センター試験の得点あまり良くなかったため、金沢大学を受験しました。第2志望の大学を受けることになりましたが、金沢大学も行きたい気持ちは強かったので、モチベーションは下がりにませんでした。ですから、第2志望の大学に行く可能性がある人は、よく調べた上で自分が魅力を感じる大学を選んでほしいと思います。

2 学習計画とその内容・方法

私は高校1年生の4月から毎日塾の自習室に通っていました。高校2年生の夏休み前まではほぼ毎日部活があり勉強時間を満足に取れなかったため、必要最低限の予習・提出物・小テスト勉強をしていました。バスや地下鉄の中では英単語を見るよう心掛け、受験までにシス単と鉄壁を完璧にしました。勉強と部活の両立は大変でしたが、そのおかげですきま時間をうまく使えるようになり、受験勉強に役立ちました。

高校2年生の夏休み前に部活をやめてから、受験勉強を本格的に始めました。休日は朝8時から夜10時半まで塾で自習しました。この頃から、計画的に勉強するようになりました。やるべきことが明確になると、見通しが立ち、やる気が出ます。私はいつまでに何を終わるか決め、そこから逆算してその日にやることを決めていました。さらにその中に優先順位をつけて、効率よく勉強しました。大切なのは、無理な計画を立てないことです。自分ができる限界を見極めましょう。予定していたことができないこともありましたが、日曜日に1週間分のできなかったことをする時間を設けていたので、心に余裕が持てました。

勉強内容については、高校2年生までに基礎を固め、高校3年生では演習を中心にしました。国語は元々得意だったので、単語や文法を定着させるくらいでした。数学は予習復習に力を入れました。1つの問題集につき少なくとも2周し、様々な解法を使いこなせるように努めました。英語は最も苦手な教科でした。授業で扱った長文は必ず5回家で音読しました。そのおかげで読むスピードが速くなりました。英作文については、知っている表現で書くということを徹底しました。そのために英作文の問題集を3周しました。化学や物理は問題ごとに解法がほぼ決まっているので、演習する中で実力をつけました。地理は、センター試験の過去問を7年分3周しました。センター試験は過去問と似たことが出やすいので、選

択肢の内容をすべて読みこみました。考察問題は全体の整合性を考えて根拠を持って答えを導くようにすると、自然と正答率が上がりました。赤本に取り組んだのは、夏休みからです。1週間に1年分ずつやりました。時間をはかることで、時間配分の感覚がつかめました。11月に入ったあたりでセンター試験対策にシフトしました。国公立の医学部はセンター試験の比重が大きく、ボーダーも高いからです。センター試験の問題はクセがあるので、センター形式の問題をたくさん解くことが大事だと思います。私自身、最後のマーク模試まで数学は7割くらいしか取れませんでした。演習する内に90点台後半で安定するようになりました。2次試験の対策をまったくやらないとなまってしまうので、以前にやっていた問題集を、ペースを落として取り組みました。センター試験の後は、赤本を1週間に2年分やりました。私の場合志望校を変えたので、早く形式に慣れないと、と必死でした。金沢大学は基本的な問題が多いので、解いたことのある問題は絶対にできるように復習を繰り返しました。また、本番は普段より10%くらい下がると想定して、目標点を設定しました。

3 後輩へのアドバイス

自分のことをわかっておくことが大事だと思います。私は苦手ノートとケアレスミスノートを作り、定期的に見直すようにしていました。センター試験や多くの大学では基本的な問題をどれだけミスなく解ききるかが重要なので、自分がどんなミスをしやすいか知っておくのはとても大切です。

また、受験が近づくとつれ、友達が存在が大きくなっていきます。勉強に疲れた時や模試の判定が悪く落ち込んだ時も、友達の勉強する姿に励まされたり、休み時間のちょっとした会話が気分転換になったりしました。教えあうことで、理解が深まったりもしました。今いる友達を大切に、一緒に受験を乗り越えてほしいと思います。

これから受験を迎える皆さんが、志望校に合格できるよう祈っています。自分がすべきことを考え、悔いの残らないよう頑張ってください。

Bさん 進学先→滋賀医科大学医学部医学科

1 志望校決定の過程

僕は、将来医師が不足する地域で働きたいと考えていたため、その目標につながるカリキュラムのある大学を探していたとき、滋賀医科大学に出会い、自宅からの距離も近かったので、その大学を目指そうと考えました。

2 学習計画とその方法

1・2年の時は部活と勉強の両立を目標に毎日を過ごしていました。部活の疲れもあって集中してできるのが考査前のみだったので、それ以外は高校、塾の予習、復習を中心に勉強していました。考査は評定平均のこともあり、本当に頑張りました。1, 2年を通して見た時、今思えば少しゲームに時間を使ってしまったという気持ちはあります。部活引退後は、二次試験の科目である英、数、物理、化学を塾でも受講しました。それまでと同様予習、復習は欠かさずやりました。また心掛けたこととして、学校の授業をうまく活用することを意識しました。部活をやっていない人比べてやはり遅れているなあという実感はあったので、とにかく吸収できるものは全て吸収してやるという思いで臨んでいました。夏休み前半はとにかく復習を優先してやりました。塾のテキストの復習を主にやり、後半は復習もしながら新しい問題にチャレンジしました。塾の先生に滋賀医大の過去問3年分は軽くやるように言われたので、さっと目を通しました。文化祭にはきちんと参加して楽しみました。主な行事が終わると段々模試も増えて入試が近づいてくる実感が湧いてくるのですが、そのころはまだ成績が思うように上がらず、判定もDやEばかりでした。僕自身は塾の先生から成績が上がりだすのは個人差があり、時間もかかると聞いていたので、あまり気にすることなく、勉強を続けていました。医学部用の模試はあまりなかったので、他大学のオープン模試も受けました。12月ぐらいからセンター試験対策を始めましたが、センター試験対策に100%集中したのは年明けからでした。センター後は私立の過去問や滋賀医科大学の過去問を中心に行い、空いた時間で足りない部分を補うために塾のテキストの復習や問題集をやりました。最終的に高3でテキストの復習を2周、物理の問題集を2周しました。

教科別でいうと英語は単語を隙間時間に覚え、繰り返しやりました。文法など基礎固めは高2までに終わらせ、あとはひたすら問題演習をやって特に評論文などは論理関係を明確にすることを心掛けました。

3 後輩へのアドバイス

一番大切にしてほしいことは勉強を楽しむ、好きな得意な教科を作ることです。もちろんやりたくない教科はあると思いますが（僕もセンターの勉強は正直嫌でした）、消極的な気持ちでやるのとやってやろうという気持ちでやるのでは理解や吸収も全然違うと思うので、ぜひ楽しもうという気持ちで取り組んでください。僕自身化学の有機は好きでした。残念ながらセンター試験がうまくいかずボーダーより18点下でしたが、初志貫徹して2次でなんとか挽回できました。出願の時は本当に迷いましたが、各大学の問題の相性と最後はその学校にいった自分を想像して決めました。共通テストを受ける皆さんは、不安はもちろんあると思いますが、その結果をしっかりと受け止めて色々考えた上で、最後は自分のした決断が悔いのないものになるようにしてください。合格を願っています。

Cさん 進学先→京都大学 文学部 人文学科

1 志望校決定の過程や志望理由

家から通える大学にした方がいいという親の勧めで言われるがまま京都大学を志望校にし、「とりあえず京大」というぼんやりした目標を掲げたまま高3を迎えました。しかし、高3になってから塾で京大出身の個性豊かで教養のある先生方と関わる機会が増え、「京大生にはこんなに面白い人がたくさんいるんだ、私もこの人たちの通った学校に行きたい」と思うようになり、高3の夏ごろにやっと京大を目指す気持ちが固まりました。

文学部を選んだのは、文学はもちろん言語学、歴史、哲学や心理学、芸術などの私に関心を持っている分野を幅広く扱っている学部だったからです。将来何をするか決めかねていた私でも自分の一番やりたいことを見つけられる場だと思ったので、こうして進路を決定しました。

2 学習計画とその内容・方法

学校の授業に加えて、塾では中2～高3で数学の授業を、高3から世界史（二次試験で300字論述問題が出るので、論述対応の講座を選択しました）の授業を取っていました。国語と英語は得意科目でしたが、数学は中学の頃からずっと苦手で、範囲の限定された定期考査では点が取れる世界史も模試では成績が伸び悩んでいました。

夏までは学校の小テスト・考査対策と塾の予復習、夏休みは塾の夏期講習をバタバタとこなすだけであっという間に終わってしまいました。しかし夏の京大実戦模試でE判定を取ってから危機感を覚え、秋から慌てて受験勉強らしい受験勉強を始めました。本屋さんの参考書を読み比べて自分に合うものを見つけ、行き帰りの電車や放課後などの空き時間に解くようにしました。また私は家で勉強に集中できるタイプではなかったため、この頃から放課後学校に残ったり、塾の自習室を積極的に利用したりするようになりました。10月以降の模試ラッシュの頃にはとにかく時間がなかったため、模試の対策と復習を繰り返しました。最後の考査が終わり12月中旬に入ってから本格的にセンター対策に移り、年末までは苦手部分をつぶし、年明けからはひたすら過去問と復習を繰り返しました。私は京大の過去問に自主的にはほとんど触れられていなかったため、センター試験後はひたすら二次試験の過去問を解き、学校や塾の先生方に添削指導や採点をお願いしました。

3 後輩へのアドバイス

私が自分の受験勉強について一番反省しているのは、「何もかも取りかかるのが遅かった」点です。「今の時期に参考書買ってもしなあ…」「今の実力で過去問やってもなあ…」なんてグダグダ悩んでいるうちに、高3の一年は特に、信じられないくらいあっという間に月日が流れます。秋冬になって共通テストの対策に忙しくなってくると、二次試験の過去問に触れら

れる時間はどんどんなくなっていくます。長期休みなどの時間のあるうちに一度解いてみて、自分の現時点での到達レベルを確認してみるといいと思います。

自分自身に合った勉強方法、学習環境を見つけることも重要です。受験は長期戦、体力も精神力も必要ですから、自分が一番ストレスなく勉強できる状態を作ってください。

受験では良くも悪くも何が起こるかわかりません。私はセンター試験の本番で緊張していたのか得意科目の世界史や国語でさえミスが多発してしまい、センターリサーチでは京大や阪大でD判定が出ました。二次試験では世界史の時間に300字論述の解答欄を丸々間違えて時間を大幅にロスしてしまいました。しかし、こんなボロボロな私でもなんとかして合格することができました。何かハプニングや思わぬ事態に直面しても、その状況で自分ができる最善を尽くしてください。努力をして損はありません。最後まで極力、諦めずにもがいてほしいです。

皆さんが一番行きたい大学を見つけて、そこで新たな学生生活を送れるよう願っています。

Dさん 進学先→京都大学 農学部 応用生命科学科

1 志望校決定の過程

中学生の頃から京大に憧れを持っていましたが、実際に目指すことになるとは思っていませんでした。高1の夏にオープンキャンパスに行ってみると、学生が皆いきいきしていて研究もすごく面白そうで、絶対京大に行きたい！！と思ったことがきっかけで志望するようになりました。学部学科は研究内容を調べて、自分が一番惹かれたところを志望しました。

2 学習計画とその内容・方法

高1まではほぼ考査の直前しか勉強していませんでした。高2の時は苦手だった英語に力を入れて勉強しました。受験勉強を本格的に始めたのは高3の8月からでしたが、部活を最後まで続けると決めていた以上そうなることは事前に分かっていたので、そのつもりで、高2の冬くらいから受験を意識して勉強を始めました。

基礎固めは、100%を目指しすぎず、苦手分野を発見したらその都度埋めるという形をとり、それを繰り返すことで全体のレベルを上げていく感じでやりました。勉強の際には、自分の位置が合格ラインから見て今どこにあるのかを常に意識することと、今何をどのように勉強するのが一番合格に近づきそうかを常に考えることを心がけていました。それによって、自分に合った勉強の仕方や、自分の勉強の中で省けそうな部分などを見つけられたと思い

ます。また、過去問演習では、時間を計り本番だと思って緊張感を持って取り組みました。本番は、思っている以上に緊張します。過去問演習の段階で、本番の空気感をイメージすることや、自分に合った時間配分を見つけそれに基づいて演習を行うことは、当日力を発揮するために重要だと思います。私はその際、ミスしやすいところを見つけたり、気の持ちようで防げそうなミスをした時は書き留めておいて、本番前に見直す用のちょっとしたメモを作るといった工夫もしました。

3 後輩へのアドバイス

メンタル面、志望校についてに分けて書きます。

まずメンタル面ですが、おそらく想像している以上にしんどいと思います。辛い時は親や友達に弱音を吐いてもいいし、少しぐらい頼ってもいいと思います。また、(2)で書きましたが、本番で実力に近い力を発揮するためにメンタルを整えることも大事です。緊張は絶対するので、事前にやっておけることは全部やっておこうという姿勢でいるといいと思います。

次に志望校についてですが、出来るだけ変えない方がいいと思います。私は実際に志望を変えていないので結果論になってしまいましたが、自分が強く憧れる大学・学部学科を目指すからこそ頑張れたように思います。模試で悲惨な成績を取って志望校を変えたいと思った時期もありましたが、あの時志望を変えていたら、今ほど伸びなかったと思います。

最後に、後輩にメッセージを伝えて終わりにしたいと思います。やれば伸びます。全力を尽くしてください。応援しています！

Eさん 進学先→京都大学工学部地球工学科

1 志望校決定の過程や志望理由

一番身近な大学であったことなどから、京都大学を目指そうと、もともと漠然と思っていました。志望学部を決めるにあたっては、周りの人の意見や学べる分野の幅広さから工学部地球工学科に決めました。結果的には特色入試で合格したのですが、センター後も特色入試の結果が出るまで1か月ほど一般入試に向けて勉強していたので、一般入試の参考にもなると思います。

2 学習計画とその内容・方法

物理以外塾には行かず参考書で勉強したので、使用した参考書をあわせて挙げていきたいです。私は数学と物理が苦手な英語と化学が得意だったので理系科目にかなり多くの時間を費しました。数学は夏休みの終わりまでに青チャートを3周したものの、京大

の問題となると手の付け方が全くわからなかったので、「世界一わかりやすい京大数学」2周、「文系プラチカ」2周、「微積分基礎の極意」2周をしました。10月中旬からはそれらの参考書と過去問を並行すると徐々にできるようになったので、基礎を身に付けてから問題に数多く当たるのは大切だと思いました。物理は予備校の衛星授業で7月末までにひととおり内容を学びました。夏休みで「重要問題集」を2周し、夏休み明けからは「名問の森」を3周しました。名問の森の2・3周目は過去問と並行しました。物理はある程度演習すると問題をパターンに落とし込みやすくなると感じました。化学では、何より知識が大切です。わからない所があると教科書を何度も読んで、覚えにくい所はノートにまとめました。化学のある単語を言われて、即座に教科書のそのページが開けられるくらい教科書を読み込んでいれば怖いものはないと思います。夏休みの終わりまでに「重要問題集」3周しました。夏休み明けから「化学の新演習」を2周して、2周目と過去問を並行しました。英語は考查で毎回満点を取るくらいの気持ちで学校の内容をきちんとこなしていると高2までで合格点は取れるようになっていたので、夏から過去問や「思考訓練の場としての英文解釈」を1日1文ほどしました。単語は「鉄壁」を3周しました。地理は11月ごろから黄色本、資料集、「統計・データの読み方が面白いほどわかる本」を読みました。また、英語・古文・漢文といった異言語は音読をすると飛躍的に伸びるので、騙されたと思ってやってみてください。

3 後輩へのアドバイス

私が受験で特に大事だと思ったことを3つ挙げます。1つめは1日で1番長時間いる学校での時間を有効にすることです。学校の授業で基礎が身につけていけば受験勉強に移行しやすい上、結局本番で差がつくのは難問ではなく基礎の取りこぼしだと思うからです。2つめはセンター(1次試験)を2次試験と比べて簡単だと軽く見ず、最後まで突き詰めて対策することです。私の場合は冬休みにセンターの過去問や問題集を英語以外の全科目毎日のようにしました。センターの結果が悪いと志望を変更するか悩みかねないし、良いと2次試験への精神的余裕ができます。二次力のある人でもセンターで失敗するとかなり精神的に不安定になるので、甘く見ないでください。実際センター対策をすることで、センターで満足のいく結果を得られ、二次力もついて二次の物理化学が10点ずつくらい上がったので、基礎は本当に大事です。3つめは絶対に英語に早めにとりかかることです。できるようになるのに1番時間がかかり、かつ安定しやすい科目なので、比較的伸びやすい他の科目にかかる時間を確保するためにもブレが少ない得意科目が一つあるとかなり楽だと思います。文系であれ理系であれ、英語力の差は合格を大きく左右します。最後に強く思うのが、もうこれ以上勉強することがほぼない、やりきったと思えるくらいやれば、突

拍子もない目標でなければだいたい達成できるということです。体調に気を付けて、もっとやればよかったという後悔をしないよう、目標に向けて頑張ってください。

Fさん 進学先→京都大学工学部地球工学科

「地震などの自然災害から街を守ることはできないのか。」2016年に熊本地震が発生し、多くの方が亡くなられ、建物も倒壊しているのをテレビで見てそう思った。そこで僕は将来防災分野の仕事をしたい、と強く思い防災や都市開発が学べる大学を探し始めた。色々な大学について調べた後、最終的にレベルが高いことと家から近いということから京都大学工学部地球工学科を志望することに決めた。

しかし、そんな簡単に行けるような所ではなく、当時の模試の成績を考えても無謀だった。そこで、自分の学習スタイルから変えることにした。部活には参加しつつ、高1～高2の終わりまで平日は3時間～5時間英語数学を中心に勉強した。(当時の休日の勉強時間は0だった)だが、成績は停滞したままで危機感を持ったまま高3の春休みを迎え、この頃から本格的に受験勉強を始めた。今では後悔しているのだが、部活をサボって勉強したりしていた。特に数学の過去問を解き始め、記述に不安がある時は先生に添削して頂いた。また僕自身、質の良い勉強をすることができなかつたので、それを量でカバーする勉強をしていた。その後はとりあえずがむしゃらに正しい方向に努力するようにした。模試の成績はA判定からE判定まで全ての判定を取るほど不安定だったが、最後の最後に伸びたおかげか、センターでも2次試験でも満足のいく点数を取ることができ、合格することができた。中3まで成績学年最底辺層だった頃から考えると、まさに奇跡だと思う。

ここまで大まかに述べてきたが、ここからは僕が実際やってよかった勉強法やアドバイスを紹介しようと思う。しかし、勉強法は人によって合う、合わないがあるので、あくまでも参考として読んで頂きたい。初めに、洛北には優秀な人が府内から集まっているだけあって、友達のレベルが高いため、お互いに質問しあったり、問題を出し合ったりと高め合いやすいと思う。実際学校で会って直接というだけでなく、LINEを使ってこのようなことをしていた。2つ目は受験生だから遊んではいけない、というのは間違いということだ。毎日勉強だけに意識を集中させることは不可能なので、ゲームをしたり動画を見たり、どこかに出かけてみるといったことは逆にプラスに働くと思う。3つ目は考査の利用方法だ。考査勉強を通じて自分に合った勉強法の模索ができると思う。つまり、いつどこでどのように勉強するのかを考えることも立派な勉強のうちの一つであり、それを実験できるのが考査ということだ。成績が必要な人を除いて、点数は受験本番に取れば良いものなので、点数よりま

ずは自分に合った勉強法を見つけることの方がよっぽど大切だと思う。極端な話、考査の点数は取ればラッキー程度に考えてみてもいいのかもしれない。最後に、最も大切な身体の健康についてだ。身体が健康でなければ勉強を続けることができない。この部分はいつ忘れがちになってしまうが、最も重要な要素だと思う。特にこれからの受験生には健康面を頭の片隅に置きながら頑張ってもらいたい。

Gさん 進学先→京都大学薬学部

1 志望校決定の過程

中学の頃から漠然と薬剤師になりたいと思って薬学部を志望していました。高1の時に科学の甲子園で有機化合物を通して化学全体の興味が強まり、京大の薬学部を目指そうと決めました。

2 学習計画とその内容・方法

私は高1、高2の時は受験というよりも考査を念頭に置いた勉強をしていました。普段は課題を予想して早めに手を付けつつ余った時間を復習に回し、試験前は復習に専念していました。普段の勉強時間は平日で1～2時間、休日で5～6時間と短めで、試験直前の休日でもない限り10時間を超えて勉強することはなかったです。塾は苦手な数学のみ高1の夏から通い始めました。

高3になってからは苦手な数学がカバーできるよう、英語にも力を入れ始めました。特に英作文を伸ばしたかったので塾に通って英作文を添削してもらえる機会を増やしました。数学は相変わらず模試の成績は低迷していたので、京大の過去問を解きまくっていました。過去問を解く際には、B4の紙の半分を計算用紙に、もう半分を解答用紙にして本番と同じ方法で取り組みました。京大数学は理解(数学的に問題を理解すること)と計画(理解をもとに解答の方針を立てること)を重んじており、解答が途中でも考え方が間違っていなければ部分点がもらえるため、難しい問題でも時間内に理解と計画ができるような勉強をしました。11月からはセンター試験の過去問を解き始めました。この時も二次試験の勉強は忘れない程度にしていました。通学時間が長いので、学校が休みの時は自宅で勉強しました。自宅で集中できない人は学校や塾を利用するのも手です。

高3になっても部活や文化祭などの学校行事にはしっかり取り組みました。また、規則正しい生活を心がけ、毎日6時に起き11時までに寝るようにし、体調管理には気を付けました。

3 後輩へのアドバイス

受験勉強と言えば「日付が変わるまで勉強した」だの「ゲーム禁止」だのとよく聞きますが、そこまでする必要はないと思います。睡眠不足で本番前に体調を崩すようでは本来の力が発揮できません。また、適度な息抜きが受験生には大切で、心身ともに健康であることが第1志望合格への近道であると思います。自分に合った勉強方法を見つけることが大切です。

洛北の先生は相談にのってくださるし、添削も丁寧にしてくさるので困ったときは遠慮せず先生を頼ればいいと思います。

苦手科目ばかりに気を取られないようにしましょう。得意科目を伸ばすことで苦手科目をカバーできることもあります。活路は得意科目にあり。

私は最後まで模試でD判定でしたが、第1志望を下げず諦めなかったのがいい結果に繋がったと信じています。現役生は自分ではわからないかもしれませんが最後まで伸びます。私も本番一週間前にやっと数学の手ごたえを感じました。皆さんも成績が伸びず苦しむことがあるかもしれませんが自分を信じて最後まで頑張りきってください。

Hさん 進学先→京都大学理学部

1 志望校決定の過程や志望理由

自分は昔から「お金を際限なく稼ぎたい」という野心のもと生きてきており、その夢の実現のためには経営が最適だと高校1年生の頃に気付きました。とりあえずある程度の学歴を確保し、外資系企業に就職したいと考え、当時模試で安定してA判定を取っていた京都大学理学部を目指すことにしました。経営ならば経済学部が最適なのでは？と思うかもしれませんが、経済学部よりも理学部の方が周囲の学生の意識が高いこと、理数系を含めより多くの分野に触れ、視野を拡充できることの2点から理学部のほうが良いと判断しました。

2 学習計画とその内容・方法

高校1、2年生の間はとにかく基礎の確立、模試で自分の弱点を発見しそれを克服していくこと、得意教科を全国に通用するレベルまでとことん伸ばしていくこと、この3点を重視して勉強していました。例えば、高1の駿台模試の英語で英文解釈が少し苦手だと自覚し、和訳に特化した参考書に取り組み弱点を克服することができました。その後、ますます英語が得意になり、高2の秋から京大の英語の過去問をはじめました。得意教科の数学に関しては、基礎を学校の授業よりも前に個人塾で一通り終わらせ、よりレベルの高い

演習を繰り返しました。物理化学はあまり重視していませんでした。国語は塾で文章の読み方のテクニックを教わっていました。

高校3年生では開催される京大模試をできる限り受け、自分の現状を把握することを意識していました。英語だけは安定して全国20位以内を取れ、そのおかげで受けた模試は全てA判定で冊子に載ることができました。数学は得意と言っても全国に通用しないことを思い知り、塾のテキストをひたすら演習していました。高1、高2でサボっており苦手な物理化学に関しては、京大模試で偏差値50~60しか取れず、夏休みに危機を感じ、参考書や塾の夏期講習を利用し、理論や現象の根本から理解するスタンスで勉強し、以前とは違う形で基礎を確立しました。この時期に確立した基礎は受験期終盤まで本当に役立ったと思います。このおかげで、事象の根本を理解せずにひたすら問題演習を繰り返してしまっている友達に追いつくことができました。

センター試験の勉強は12月下旬に始めました。苦手な倫理政経も学校配布のプリントを繰り返し、詰めさえすれば満点を狙える次元まで伸びました。センター試験は各々の教科にかける勉強時間の比率がとても重要です。センター後はできる限り本番を意識して演習しました。自宅でエッセ京大入試を本番同様の時間割で何回も行い、自己採点と分析を繰り返しました。赤本よりも採点基準付きの、京大実戦やオープンの過去問に取り組むほうが苦手なポイントを意識でき、実力は向上すると思います。

3 後輩へのアドバイス

受験勉強を通して最も印象に残ったことは、「英語は努力を裏切らない」ということです。1教科でも安定して全国に通用するレベルにあれば、他の教科が平凡でもある程度は戦闘力があります。あと1つ挙げておけば、メンタル面の維持です。自分の実践例で言うと、試験が始まる前の沈黙の間に行う精神統一の儀式を決めておく、試験中は自分中心に世界が回っている、と自信を持ち自分に暗示をかけることです。

I さん 進学先→京都教育大学教育学部国語領域専攻

1 志望校決定の過程や志望理由

私は小学生の頃に教師になりたいと思い始め、京都教育大学で学びたいと考えていました。その思いは高校に入学してからも変わらず、一途に京教を目指してきました。しかし私は2回諦めかけたことがあります。1度目は、京教の推薦入試に不合格となったときです。文理コースで共に受験した仲間のうち私だけが不合格となり、私は縁がないのかなととても辛く、志望校を変えたいと本気で思いました。2度目は、センターリサーチが返却された

ときです。京教はE判定でした。今度こそ本当に無理だと思いました。第2志望の大学はB判定だったので、先生方にたくさん相談してそこを第1志望とし、進路指導部への提出物にも初めて京教ではない別の大学名を書きました。こうして京教を諦め、気持ちを切り替えようとしていた矢先、担任の先生に1本の電話をいただきました。この電話は私の人生を大きく左右するものだったなと今ではそう思います。やっぱり京都教育大学を受験しないか、という内容でした。様々なデータに基づいた上で、私にもまだ合格の可能性があることを教えていただき、私は当たって砕けろぐらいの気持ちで再び京教を第1志望校としました。そして二次試験を受けた末、運良く合格することができました。紆余曲折を経て志望校を最終決定しましたが、たくさん悩んで良かったなと心から思うし、志望校選びは時間を割いて、周りの意見も聞きながら自分が納得いくまで慎重に行うべきだと思います。

2 学習計画とその内容・方法

私が部活動を引退後まず取り組んだことは、勉強時間を増やすことです。周りの友人より明らかに量が少ないと感じたので生活習慣を見直し、以前より長時間勉強することに早く慣れるよう努めました。具体的に1日の計画を立てたりせずに、「〇〇までにこれぐらいできるようにする」「とりあえずこの問題集は終わらす」などと漠然と考えていました。とにかくセンター試験に向けて全教科を満遍なく取り組むように意識していました。私は英語が苦手だったのですが、どんなにやる気が出ない日でも英語だけは毎日勉強すると決意しその結果、模試で徐々に得点を伸ばすことができたので、何か1つでも習慣づけるやり方をおすすめです。

そして私は高校3年間塾へ通いませんでした。理由としては自分にあつた塾を探すのが面倒だったことと、お金がかかるからです。周りは塾に行っている人がほとんどで不安もありましたが、行っていない人同士で励まし合っていました。塾に行かずとも、授業中の演習を大切にしたり、学校の補習を受講したり、先生に個人的に教えていただいたりなど、勉強する環境は整っているのではないかなと思います。

3 後輩へアドバイス

私は今までの人生で高校3年生の1年間が1番辛かったです。いつになったら点数が伸びるのか先が見えない毎日、メンタルが崩壊する模試の志望校判定、次々と進路が決まっていく仲間たち、そんななかで必死に努力を重ねても合格は約束されていない。ひたすら勉強し続けるだけの機械的な日々には私は何度も負けそうになりましたが、それを乗り越えた今は何も怖いものはありません。たくさんの人に支えてもらい頑張ったこの1年は私だけの財産だなと思います。そして第1志望校に合格していなくても、きっとそう感じていたと思います。皆さんにもそんな経験をしてほしいです。自分としっかり向き合って、自分らしく突き進んでください。

Jさん 進学先→京都教育大学教育学部社会領域専攻

1 志望校決定の過程

私が京都教育大学を志望し始めたのは、高校1年の頃からです。小学生の頃から教師になりたいと思っていたので、1年の夏にオープンキャンパスへ行きました。周りの友達を見ると、「もう少し偏差値の高いところを目指すべきなのか」と思うこともありましたが、自分の夢に近づくために教育の充実した大学へ行こうと決めました。

2 学習計画とその内容・方法

私は、受験勉強を基本的に軽視していて、とにかく部活に没頭して、引退する5月まではほんとうに勉強をしていませんでした。引退までは、考査勉強すらあまりせず、平均点を越えたことがないようなレベルで、特に、英語と数学は、基礎から理解できていないような状況でした。部活を引退してからは、とにかく基礎を初めからやり直すことを意識してセンター試験の勉強を始めました。夏休みは、ずっとセンター数学の問題集を解いてあまりほかの教科は手を付けていませんでした。その成果もあり夏休み明けからセンター形式の数学を解くと8割をだいぶ安定してとれるレベルにまでなりました。しかし、もちろんほかの教科は全然伸びず、すべて6割という状況でした。秋から理科基礎・社会に手を付け始め、理科基礎は徐々に伸びたものの、公民や日本史の近代の知識がなかなか定着しませんでした。12月には受験機会を増やすため推薦入試を受けましたが、小論文にまであまり手が回っておらず、結果はダメでした。

切り替えて、苦手だった英語や定着の追いついていない社会を重点的に、過去問を繰り返し解きましたが、自信のつかないままセンターに挑みました。すると、私の悪い予想どおり、全体で目標を大きく下回り、志望校である京都教育大学どころか、国公立のほとんどがE判定でした。志望校を変えることを、塾からは勧められましたが、どうしても諦められず志望校は変えないという選択をしました。

それからは、毎日今までの国語の問題集を解き、単語や文法のわからないものを調べるといふことの繰り返しでした。2月は過去問を解いて、添削してもらい、書き直すということをし続けました。2次試験までの1カ月は国語が嫌いになりかけるほど、国語と向き合い、センターの時とは違って、国語と小論文は自分が1番解けると思えるくらい自信を持つことができました。その自信で合格に近づくことができましたと思います。

3 後輩へのアドバイス

私が言えることは、自分の目標に向かって最後まで自信のつくくらい不安なところをなくした上で試験に臨んでほしいということです。何度振り返っても、センター試験の時の私は詰めが甘かったです。あとは、とにかく学校生活を楽しんでください。私は部活でテニス

に没頭したことが1番の思い出だと言いつけるくらい楽しみました。受験の辛い時も支えになるくらいの思い出を作ってください。

自分のやりたいことをやりきって、夢に近づくように頑張ってください！

Kさん 進学先→京都教育大学教育学部幼児教育専攻

1 志望校決定の過程

私が教育学部を目指すようになったのは、保育体験や近所の子供達と遊ぶことを通してこのことを仕事にできたら素敵だと感じたからです。そこで、幼稚園と小学校の教員免許が取れ、同じ目標をもつ仲間が多く集まる京都教育大学を目指すようになりました。

2 学習計画とその内容・方法

私は推薦入試で合格をしたのですが、推薦入試がある12月まではセンター試験に向けて勉強をしていました。受験勉強を始めたのは、高校3年生になってからなのですが、それまでの学校の定期テストに力を入れていたのでスムーズに始める事ができています。しかしそれでも英語が特に弱かったので文法からもう1度洗い直していました。部活を引退してからは、平日5～6時間程、土日は最低でも10時間は勉強していました。平日は学校で残り勉強して夜から塾に行き、土日はスタバか、塾で勉強していました。ただ、勉強だけを闇雲にしてはいけないと思っていたので、ここまでの勉強が終わったら自分へのご褒美にお菓子を食ったり、音楽を1曲聴こうなどと決めて楽しく勉強していました。それでも夏休みなどの長期休暇は精神的にきついところがありましたが、一緒に頑張る友達がいたのでなんとか乗り切っていました。模試も何回も受けると思います。その度に復習は絶対です。結果が悪いと落ちこみます。しかし、自分の弱点がこれで克服できたのだと考えて分からないところは何度も先生に質問に行っていました。11月頃からは面接と小論文の対策を始めました。ここで自分がやっていたことは、一冊ノートに幼児教育に対しての自分の考えをまとめ、ニュースをメモをしたり、図書館で新書を借りてまとめたりしていました。先生方にいただいた過去問を何問も解き添削もしてもらっていました。入試を経験して思ったのですが、新書を読み知識を蓄えたことはかなり役に立ちました。こうして勉強しているうちに初めの模試でE判定だったものが、A判定まで上がり、落ち着いて推薦入試を受ける事ができました。

3 後輩へのアドバイス

効率よく勉強するにはどんな科目でもなぜかということを考えることだと思いました。根拠を考えることは記憶にも定着しやすいですし、闇雲に勉強するよりも勉強していて楽

しいです。しかしこれはあくまでも私にあった勉強方法なので、皆さんも自分にあった勉強方法を見つけてください。

受験は本当にメンタルが持つかどうかだと思います。受験生だからといって思い詰めすぎないでください。何事も楽しむ事が大切だと思います。しんどいことには間違いないことだとは思いますが、自分の工夫一つで前向きになれると思います。そのためには一緒に頑張れる仲間を作ってください。私も一人では乗り越えられなかったと思っています。そして普段の学校生活は楽しんでください。メリハリが大事だと思います。1・2年生のみなさん、今しかできないことをたくさん経験して自分の幅を広げてください。3年生のみなさん、最後の高校生活めいっぱい楽しんでください。応援しています！

Lさん 進学先→京都教育大学 教育学部 数学領域専攻

1 志望校決定の過程

高校入学時から将来教師になりたいと思っていたので京都教育大学に入りたいと考えていて、3年間志望校は変わりませんでした。

2 学習計画とその内容

1年生、2年生の間は授業の課題や小テストの勉強程度しかしておらず、定期テストの勉強も部活が休みになる1週間前からやりだしていました。しかし授業は寝ることや内職することは殆どなく集中して受けていました。3年生の春休みから勉強の意欲が上がり、英単語、古文単語、系統地理、IA青チャート基本例題などやっと基礎をやるようになりました。夏休みからは模試を受ける回数が増えてきたので、次の模試までにこれだけする、と決めて、それを基準に1日にすることを決めていました。毎日全ての教科をしていました。センターの得点比率が70%で二次試験の科目が数学と化学だけだったので、夏からセンター試験を意識していましたが、夏休みに1年分二次試験の赤本を解きました。

英語は、夏休みは単語、熟語、文法を中心にやり、秋頃から過去問や河合のマーク式問題集をしました。

数学は夏休みまでにIA青チャート基本例題を復習して夏休みはII Bをしました。数IIIや記述対策は数学の授業と数学精義の授業だけで、家ではマーク式の問題を解いていました。センター後は入試の核心や赤本で記述対策をしました。

国語は古文単語、古典文法が中心で、問題演習は授業で行う過去問演習とZ会の実戦問題集をしました。古文単語は結局最後までしました。

化学は、夏休みは重要問題集を習っている单元まで復習しました。夏休み後に習う高分子

化合物は、教科書をよく読んで演習で忘れていたところは教科書に戻るなど教科書を活用するのがいいと思います。センター対策は秋頃から始め、過去問を解いて復習する、間違えた問題に何度も戻る、これだけで対策は十分で基礎固めにも繋がるので大切にしてください。センター後は重要問題集や赤本で記述対策をし、直前期は教科書を読んでいた。

地理は夏休みから友達に使っている人が多かったデータを読み取る教材を何周かして、そこからは資料集を愛用していました。マーク式の問題を解いて解説を読み資料集に戻る、これ繰り返していました。特に過去問を単元別に解くのをオススメします。

物理の代わりに理科基礎2つで受験できたので化学基礎と物理基礎の2つは殆ど対策せずすみしました。

3 後輩へのアドバイス

この合格体験記を読んでいるということは、あなたは受験についてよく考えている、もしくは勉強のことで悩んでいるのだと思います。新テストなどで不安も大きいと思います。しかしそれなら勉強しましょう。正直この体験記に載っている勉強法などは一例で、自分に合うものを見つけるには勉強するしかありません。また、勉強法に捉われ過ぎないのも大切です。勉強の質や効率も大事だとは思いますが量が質を超えることはあると思います。1回で覚えられたら良いに越したことはないですが忘れてしまうなら何回でもすればいいだけです。時間はあります。ということで僕の体験記を読み終えたら次の人に行かず勉強しましょう。第一志望合格に向けて頑張ってください。

Mさん 進学先→京都教育大学教育学部体育領域専攻

1 志望校決定の過程や志望理由

私は中学校の頃から体育の教員になりたいと思っていました。京都教育大学は、教職への就職率が高く、学校現場で役立つ授業や子どもたちと関わる実践的な実習を受けることができます。しかし、洛北高校スポーツ総合専攻コースに入学後、過去にこのコースの国公立大学進学者数が少ないことを知り、現実的に進学は厳しいと思っていました。

夏休み頃、知り合いを介して京都教育大学在学の方から連絡をいただき、推薦入試制度を詳しく教えていただきました。それまでは指定校を使った大学進学を考えていましたが、ほぼ確実に合格する大学を選ぶか、リスクがあるが本当に行きたい大学に挑戦するか、悩みました。そのうえで、可能性があるなら、勉強して京都教育大学に行きたいと考えました。

2 学習計画とその内容・方法

引退後も部活動の練習に参加していましたが、受験の約2か月前からは勉強に専念しました。受験内容は、小論文・面接・プレゼンで、過去の受験レポートを見てみると、専門知識を問う問題が多くあったので、昨今の教育問題を調べたり、保健体育の教科書・スポーツ概論から勉強をしました。プレゼンについては、進路指導部の先生方をはじめ多くの方に見ていただき、ご指摘をいただきながら練習を重ねました。また、顧問の先生に、教育についてお話を聞く機会を設けていただいたり、国語の先生に小論文指導をしていただきました。

高校に入ってから、ハンドボールを離れて勉強に専念する期間はなかったのですが、この勉強内容・勉強量で受かるのか、もし落ちてしまったらどうしようか、と不安になる日々が続きました。本番、勉強していたスポーツ概論の内容が小論文のテーマとして出題されました。約2か月間の勉強が報われました。

3 後輩へのアドバイス

スポーツコースは、一貫や文理ほど勉強に縛られることなくスポーツができる、恵まれた環境にあります。だからこそ、いかにテスト期間、早く部活動が終わった時間を濃い時間にするかでテストの結果、そして成績につながると思います。なかには、スポーツの実績を使って推薦で進学しようと考えている人もいると思いますが、結果を残せなかったら？怪我をしてしまったら？と考えると、自分の将来の選択肢を広げるために今、できることは、部活動を毎日頑張ることと、時間があるときにテスト勉強をサボらずにすることです。後悔のないように、頑張ってください。

Nさん 進学先→京都工芸繊維大学工芸科学部設計工学域 電子システム工学課程

1 志望校決定の過程や志望理由

私は、京都工芸繊維大学のA0入試で合格しました。私が京都工芸繊維大学を志望した理由は、電気分野が好きであることと、技術・知識だけでなく、美術・感性とともに追求する姿勢に惹かれたからです。A0入試の受験を決意した理由は、先生に勧められて調べた結果、過去の頑張りを評価してもらえると考えたからです。

2 学習計画とその内容・方法

私の学校生活の根幹は、多くの企画に参加し自身が何をを目指したいのかを考えることでした。それゆえ、筑波サイエンスワークショップやアジアサイエンスワークショップなどの活動に参加しました。私は典型的な理系なので、全体的に見て、いつも残念な点数を吐き出

す語学に力を入れるようにしました。1年生から2年生の夏休み頃までは、英語と古典に力を入れ、その他の教科は普通に勉強していたと思います。文化祭やアジアサイエンスワークショップ等の、自分にとって大きな活動が終了すると、ゲームをしないようにしました。そして、徐々に学校行事や活動、ゲームをしていた時間を理科系の教科の勉強時間に割り当てました。その中で、語学以外の時間が確保できると同時に自分の学力を見直して苦手な範囲の基礎を勉強するようにしました。3年生になってからは、基礎だけでなく発展問題を解きました。センターに向けた勉強としては、模試過去問などを解いて、点数の取れなかったところは、チャートで勉強しなおしてまた解くという、スタンダードな方法で勉強しました。一日のスタイルは、朝に弱かったので勉強は家に帰ってからと21時から24時の間にすることが多かったです。一つのルールとして、「日付が変わると勉強は切りのいいところで終わらせて0:30までに寝る」と決めていました。そのため、眠くて勉強できないということはありませんでした。

3 後輩へのアドバイス

勉強方法については、授業を寝ずに聞き、教科書をしっかり読み込んで基礎を固めれば十分戦えます。無理に応用問題や難しい問題を解く必要はありません。しっかりと基礎を固めてから取り組むようにしましょう。京都工芸繊維大学の最終選考については、課程ごとに選抜方法が異なります。私が、受験した電子システム工学課程の最終選考は、口頭試問でした。面接官の前で、ホワイトボードを使用しながら回答するので、筆記試験でもあります。与えられた課題に対して、答えへのアプローチや使用する単位系・記号を指定しないので、答えは筆記のようにたくさんあります。説明の論理展開がめちゃくちゃになる人は筆記で練習してください。AO入試対策として、特別なことをする必要はありません。一般入試に向けた勉強はしっかりと役に立ってくれます。あとは、話す練習だけでしょう。もし、面接で慌ててしまったら落ち着いて「1分ほど考えさせてください」などと言って、言いたいことを整理しましょう。幸運を祈ります。

〇さん 進学先→大阪大学文学部

1 志望校決定の過程

志望校を決めたのは3年の秋です。何も考えてなかったのではなく、あれこれ考えすぎてなかなか決めることが出来ませんでした。でもその分じっくり考えたので、今振り返るとここに決めてよかったと心の底から思っています。実は私は3年の春で文転しました。理系の勉強が面白いという理由で理系に決めたものの、理系科目がとことん出来なかったのです。

それでも諦めず高1から自主学習を真面目にしましたが、結果がついてこず…。「あ、もう理系は向いてないな、無理に理系にしがみつかなかなくてもいいや」、と開き直り思い切って変更しました。そして勉強していてやりがいもあり、楽しかった英語の勉強をしたいと思い文学部に決めました。志望校はオープンキャンパスに行って気に入った阪大にしました。

2 学習計画とその内容・方法

私はテスト直前まで復習中心の勉強を貫きました。理解が遅い上に初見の問題に対して手が止まってしまうがちの私は解いた問題を完璧になるまでやり直すことが一番だと思ったからです。単語帳はいつも持ち歩き細切れの時間に見たり、英語の長文は同じものを何度も読み込み重要なイディオムや構造を覚えたり、苦手な数学では同じ問題を期間をあけて自力で最後まで解答出来るまで繰り返し解きました。数学は解答を見て理解するのと実際解くのとでは天と地との差があると思います。苦手な数学もこの方法によって本番では奇跡的に得点源になるまでに底上げできました。

11月ぐらいまでは二次とセンターを6：4ぐらいの割合で進め、12月からはセンター対策のみに絞りました。センターは1か月でもぐっと点数を上げられます、私の場合は短期集中して何とか乗り越えました。センター後はすぐに二次に切り替え、ここでもまた復習をこれでもかというほどにしました。塾の講習でのみ新しい問題に取り組み、後はその問題の復習と使い込んだ問題集、単語帳（英単語・古文の助詞、助動詞・漢文の句形）に絞りました。逆に私は時間配分を考えるために赤本を5年分は解きましたが、あまり時間を割きませんでした。

3 後輩へのアドバイス

私はテニス部に所属し、部長を務めました。練習日も多めで家に帰るのも8時半ごろと遅く、2年の時、勉強との両立で悩み辞めたいと何度も思いました。でも引退までやり切りたかったし、絶対に両立させると決心して最後まで続けました。引退後は誰よりも勉強する気で起きている時間はほぼ勉強に充てました。みなさんの中にも同じように悩んでいる人がいると思います、でも私は部活をしていて本当に良かったと思うし後悔は全くないです。何かを最後までやりきったことは自分にとって励みになります。部活も勉強も精一杯頑張っていたらきっと大丈夫です。

受験期を振り返ると正直しんどかったし、今だから言えますが何度も落ち込んで泣きました。でもそんな時立ち直れたのは一緒に頑張っている友達、先生方、先輩方、部活の後輩たち、家族の応援があったからです。これはきれいごとではなくて本当に感謝しています。受験は自分との戦いでもありますが、周りの協力無しではできません、勉強に打ち込める環境にいられることに感謝の気持ちを忘れずに。不安だからこそ地味こつをモットーにテスト開始のぎりぎりまで手を止めずやり切ってください。みなさんが目標に向けて一歩踏み

出せることを信じて応援しています。

Pさん 進学先→ 大阪大学外国語学部ドイツ語専攻

1 志望校決定の過程

私は外国語の勉強が好きで中学生の時から独学でドイツ語を勉強していたため、高1の比較的早い段階から大阪大学外国語学部のドイツ語専攻を志すようになりました。センター150点に対する2次500点によりセンターで失敗しても2次で挽回可能なことと、数学配点が全体の4%以下、英語配点が50%と考査で数学ワースト2と同時に英語トップ2を取るほど得意不得意な科目がハッキリとしていた私にピッタリな試験方式だったこと、国立総合大学で唯一60言語も学べるのが受験の決め手となりました。理系科目で失敗してセンターリサーチで厳しい判定を突きつけられ、一時期はボーダーの低い言語に変更しようと思いましたが、結局は自分の夢を諦めずに思い切って出願して合格を勝ち取れて良かったです。妥協も大事ですが4年間本当にその勉強を頑張れるかをきちんと考えることも大切だと思います。

2 学習計画とその内容・方法

私は家では全くと言っていいほど勉強に集中出来なかったのですが、5月考査が終わってからは毎日のように放課後や休日に駿台の自習室を利用しました。センターが終わってから2次までの期間は塾のある日以外は毎日学校に通い、国英世史の添削を先生方をお願いし空いた時間で自習していました。周りが黙々と勉強に集中している空間では自然と自分も頑張ろうと思えるし、逆もまた然りです。私は理科や社会といった暗記科目が大の苦手でしたが、今まで試験を受けた後放置していた模試で間違った所を見直してまとめるだけで一気に20点ほど得点を上げることが出来ました。全科目は難しくても、暗記が大事な理科社会を復習するだけでもかなり違うと思います。また、数学の配点が低いからと数学に当てる時間を他科目に回し続けた結果、文系科目9割理系科目5割とむらの激しいセンター結果となり後期で出願する学校にかなり悩んだので、前期だけではなく後期のことも考えて勉強計画を立てることをおすすめします。

3 後輩へのアドバイス

娯楽を全て禁止してしまうと精神的に辛いので、程よく楽しむことが大事だと思います。私のように意志が弱い人は親にスクリーンタイムを設定してもらったり時間制限アプリで管理してもらおうと良いです。また、勉強した時間を記録するアプリでは自分の努力が可視化され、同じ目標を持つ仲間と切磋琢磨できるのでオススメです。量ではなく質も意識する

ようにしましょう。あと、本番の緊張に弱い胃腸を持つ人はお腹にカイロを貼るだけでだいぶ身体の調子と心持ちが変わると思います。最後に、受験する大学へ絶対に入りたいという熱意を持つと多少のことで落ち込んでも目標に向けて頑張ろうと再復帰できるので、オープンキャンパス等に積極的に参加してどんどんその大学の魅力や将来やりたいことを発見しましょう。皆さんの健闘を祈っております。

Qさん 進学先→大阪大学工学部応用理工学科

1 志望校決定の過程

高校二年生の時に京都大学主催の ELCAS に参加しました。その ELCAS でいろいろな学問分野を知り、自分は医療工学を大学で学びたいと思いました。高校三年生の9月までは、家に近い京都大学をなんとなく第一志望にしていたのですが、京都大学の入りたいと思っていた研究室は MRI などのイメージングに力をいれていて、少し興味を持っている分野とずれていると判明しました。興味のある医療工学分野を最も深く学べるのはどこか調べると、大阪大学の工学部が適切であったので、高校三年生の10月に大阪大学を第一志望としました。

2 学習計画とその内容・方法

数学→高校二年生までにチャート全て2周、高校三年生の春までに一対一対応の数学を2周、やさしい理系数学を2周以上、そして京大の過去問を解いていました。センター前は訓練だと思って沢山過去問やセンター模試の問題を解いていました。二次試験前は過去問の解析をして自分専用のノートを作っていました。数学については問題の解説書を作ると、とても良いと思います。解答の流れを全て理解することによって、初見の問題を解くときに根拠に基づいたアイデアが思いつきやすくなります。

物理→毎度考查では悪い点を取っていました。考查までに内容を理解することが出来ず、泣きそうになりながら試験を受けたこともあります。なぜ二次試験の物理で良い点数を取れたかという、理解しようともがき、沢山の問題を本番までに解いたからです。高校物理の全てを説明できるようになるのは難しいことです。なぜこの公式が存在しているのか、なぜこのような表し方をするのか、実験の意義は何なのか、などばかりを諦めると言われても考えていました。確かに本質を理解しようとするよりも沢山の問題に触れることが受験においては大切かもしれません。しかし自分は頑固だったので自分のやり方を最後まで貫きました。これが良かったのかは分からないので、おすすめはできません。最低限名問の森を2周以上解き、数学と同様、過去問の解説書を作っていました。

英語→システム英単語、鉄壁を使っていました。ポレポレで文法の勉強、先生に勧めてい

いただいた和文英訳教本で英作文の勉強をしていました。

化学、地理、国語は直前期に点数を大幅に伸ばしましたが、センターや二次試験で自慢できるような結果は残していないので触れないでおきます。

3 後輩へのアドバイス

周りのみんながいつも言う「ぜんぜん勉強してない～」は信じてはいけません。高校二年生までこの言葉を信じてしまっていた自分は高校三年生のときに周りの現状を知ったとき焦りました。そして周りにはいる様々な人からいろんなことを聞くとおもいます。その全てを信じ受けとめるのではなく、言葉に隠されているその人が本当に伝えたいと思っていることだけをくみとって、受けとめたら良いとおもいます。皆さんがまずはじめに信じるべきは頑張ってきた自分です。そして将来やりたいことが見つかっている人は大学名に関係なくやりたいことができる大学を見つけてほしいとおもいます。「現役生は最後まで伸びる」とよく言われますがこれは事実です。絶対に諦めないで頑張してほしいです！！

Rさん 進学先→大阪大学 工学部 応用自然科学科

1 志望校決定の過程や志望理由

私は大阪大学に推薦入試で合格しました。志望校を決定したのは3年になってからです。私はまだ将来の夢が決まっていなかったため、学部や学科を選ぶことが難しかったのですが、大阪大学の工学部応用自然科学科では、1年の時に化学と物理と生物を全て勉強した上で、2年になってから学びたい分野のコースに進むことができると知って魅力を感じ、この学科に決めました。高校3年の夏には初めて大阪大学のオープンキャンパスに行き、その時に教授の方がおっしゃっていた研究に興味を持ち、この先生の研究室に入りたいと思うようになって意思が強く固まりました。

2 学習計画とその内容・方法

1年の時は塾に通いながら学校の勉強と部活の両立を頑張りました。充実した学校生活を送りたかったため部活や行事の取り組みに積極的に参加しました。進んで自習をするというよりは、学校と塾の宿題を必ず提出し、考査は2週間前から勉強してできる限り良い点数をとることを心がけました。

2年になってからは部活やサイエンスの研究で大変でしたが、1年の時と同じように宿題と考査勉強は真剣に取り組みました。また、数学と英語は2年の間に仕上げるべきだと言われていたので、特に数学と英語に力を入れました。

3年になると塾の授業が増え学校との両立がもっと大変になりましたが、引退するまで

は部活に集中しました。引退後は受験勉強に切り替え、放課後は塾や学校の自習室で勉強しました。夏頃にサイエンスの授業で行った研究を学会などで発表すると賞を頂けたこともあり、推薦入試を受けようと思い始めました。二次試験前には赤本ばかり解くと聞いていたので、夏休みには赤本を買いましたが3年分だけ解き他には手を付けませんでした。その分、化学と物理を伸ばすために「化学の新演習」や「名門の森」をたくさん解き基礎力をつけました。夏休みに理科に多くの時間を費やしたことはものすごく強みになったと思います。11月頃には推薦入試の出願があったので、そのための研究のレポート作成を頑張りました。12月頃からセンター試験の対策を始め、私は苦手だった国語と地理に力を入れました。国語では古文単語帳と「漢文必携」、地理では地図帳が役に立つと思います。センター直前は毎日全ての教科に触れることを心がけ、模擬問題集をたくさん解きました。センター後はすぐに赤本に取り組むのではなく、二次試験の問題の感覚を取り戻すために問題集で苦手な分野を中心に勉強し、1週間ほど経ってから赤本を始めました。

3 後輩へのアドバイス

部活を最後まで続け学校行事に積極的に参加することは大事だと思います。そのおかげで勉強への切り替えがしっかりできるようになり、受験期も折れずに頑張ることができました。また、推薦入試を受けるとチャンスが1回増えるけれど、合格発表がセンター後しばらく経ってからなので気持ちの維持が難しくレポート作成や面接練習もあるので、しっかり調べた上で受けるか考えた方がいいと思います。頑張って合格をつかみ取ってください！応援しています。

Sさん 進学先→大阪大学理学部生物科学科生命理学コース

1 志望校決定の過程や志望理由

僕は高1の時はぼんやりと国公立の大学に進学できれば良いと考えていた程度でしたが、高2の時に行った学祭で雰囲気が入りに、調べていると自分に合った学科があることを知って志望校を決定しました。

2 学習計画とその内容・方法

高1や高2の冬休みくらいまでは正直なところいわゆる受験勉強のようなものはしていた記憶がありません。普段は部活で疲れているのを言い訳に、帰ってきてから勉強することのほうが珍しかったと思います。ですが、そんな状況だったからこそ授業の内容はその場で完全に理解するように意識していました。また、テスト前などは部活もないので、その期間だけでもと思って得意教科なら1位をとれるくらいには勉強していました。高2の

冬くらいから徐々に受験を意識した勉強をするようになり、高3で部活を引退してからは塾に通い出しました。学習計画については、あまり計画を立てて勉強することが得意ではないのできっちりしたものは立てず、最終的に到達したいレベルを考え、一週間ごとくらいに自分の到達度を考えて何をするか決めていました。教科ごとの具体的な内容としては、国語は、センターでしか使わないうえに、得意だったので古文単語以外ほとんど勉強していません。反対に、センターで必要な地理は直前の模試でも半分くらいしか取れないほど苦手だったので塾の冬期講習をとり、苦手な部分の確認ノートも作って試験開始直前まで繰り返し復習していました。数学は、「なぜその操作を行うのか」を考えることを大切にしていました。そうすることで応用問題でも問題の本質が見抜けるようになると思います。物理は、基本的にはやることが決まっているので、公式を丸覚えするのではなく現象や式の表す意味を正確に理解した上で演習を重ねることを重視していました。化学はあまり得意ではなかったのとにかく演習をしながら暗記をしていました。英語は単語に関してはわからないものがあれば、問題を解いた後に全て調べ、単語帳にないものはノートにまとめるようにしていました。また、英作文は早くから添削指導をしてくださる先生がいたので英作文になれることができました。特に英作文や数学の記述などは学校などの先生に頼んでみてもらうといいと思います。

3 後輩へのアドバイス

受験勉強といっても何から手を付ければいいのかわからないという人は、まず、自分が大学受験、もしくはその後の人生において何を重視するのかを考えてみてください。そして、行きたい大学が決まればその大学についていろんな情報を集めてください。例えば、私立大学に行きたければ指定校推薦などがあればそれが一番手取り早い手段かもしれません。国公立大学でも、様々な選抜方式があります。それを踏まえて、次は自分について分析してください。自分の現状、伸びしろ、志望校との兼ね合いなど、その分析に模試を活用するのがおすすめです。それをすれば、おのずとやるべきことが見えてくると思います。後はメンタルが壊れない程度に自分を追い込んでそれを実行するだけです。友達との会話は精神安定剤になるので受験期でも学校にはいくことを僕は勧めます。

Tさん 進学先→九州大学 農学部 生物資源環境学科

1 志望校決定の過程

僕は子供のころから生き物に興味があり、大学は生物学(特に海洋学)について深く学べる農学部に行く決めていました。高校に入学した時から研究設備が整っている旧帝大に

行きたいという思いもあり、一昨年実際に九州大学を訪れました。キャンパスの広さ、充実した設備に圧倒されたこともあり、志望大学の一つとなりました。センター試験の前は別の大学を第一志望にしていたのですが、思い通りに得点できなかったため先生、家族と相談しこの大学を選びました。

2 学習計画とその内容・方法

僕はあまり計画を立ててコツコツ勉強をすることは得意ではなかったため、「次の模試で〇判定をとる。〇〇〇点を取る」などのように漠然とした目標のみを立てていました。しかし、最後まで嫌いな古文漢文などの勉強はあまりできず、センター試験で失敗したのだと思います。「来週までに〇〇ページまで終わらせる」というような細かい目標も立てるべきだったのかもしれませんが。

高3の5月頃に本格的に受験勉強を始めましたが、冬休みごろまでほとんど二次に必要な英語、数学、理科のみ勉強をしていたため、国語、地理の勉強が疎かになってしまいセンター直前のマーク模試では国語、地理は全然得点が取れていませんでした。地理は冬休みに死ぬ気で頑張ったこともありなんとか9割以上とることができましたが、国語は結局最後まであまり勉強ができず目標の点には遠く及びませんでした。

また、二次の過去問はセンター後に志望校を変更したこともあり、センター後に初めて解き始めました。過去問では英語、理科はある程度合格点に達していましたが数学は全然解けなかったため、1か月間数学に重点を置いて勉強を進めました。結局本番では数学はほぼできずとてもショックでしたが得意教科の英語、理科で稼ぎなんとか合格することができました。

3 後輩へのアドバイス

受験勉強では、多くの参考書を完璧にこなせる人は良いですが、僕のようにどれも中途半端になってしまう人は、多くの参考書に手を出し疎かにするよりも一つの参考書を極めるのが圧倒的に良いと思います。一つの参考書を極めるだけでもある程度の力は付けることができます。実際僕も定期テストの勉強と過去問以外は化学は教科書と重要問題集、生物は教科書、数学は青チャート、英語はシス単とポレポレくらいしか勉強していませんでした。

また、受験する大学はセンターが終わってから考えれば良いので、センターが終わるまではたとえ模試の判定が悪くても決して第一志望の大学を諦めるべきではないです。

受験勉強は辛いことばかりだと思いますが、最後まで決してあきらめず、自分を信じて頑張ってください！！

Uさん 進学先→京都市立芸術大学美術部美術学科

1 志望校決定の過程やその理由

私が志望校について真剣に考えるようになったのは2年生の終わり頃でした。それまでは漠然と美術系か英語系の学部に行きたいとしか考えていなくて、とりあえず市内の国立大学がよかったので、美術系に行くなら京芸、英語系に行くなら〇〇大、と一応2校にしぼっていました。高2の3月くらいに、芸大を目指すとなるとアートスクールに通わないと難しいと親に言われ、塾に通うなら4月から入りたかったのが3月が終わるのをリミットにして何週間も悩みました。両者全く異なる系統の2校間で揺れていましたが、最終的に決断できたのは、その大学を志望した時の、また進学できた時のメリットとデメリットを紙に書き出したことでした。私の場合、芸大の方はアートスクールに通うと負担が大きい等のデメリットが大きい分、メリットも大きいことが一目瞭然だったので、アートスクールに通い京芸を目指すことに決めました。

2 学習計画とその内容・方法

私が受験のために勉強をしようと思いついたのは高3の4月でしたが、何をしたらいいのか、何から始めるべきなのかわからなかったのが、今まで学校で受けてきた模試の結果を見て自分の苦手な部分を把握して、数学なら青チャート、世界史なら教科書、というように学校で使ってきた物で、夏休みまでは抜け落ちている部分を補うことをしました。

古単、英単語、漢文の句法等に関しては、「毎日単語帳を3ページ覚える」と決めてやっていました。個人的には、一気に詰め込むよりも1日に見るページ数を少なめにして、ぼやっと覚えているだけでもいいから毎日ちゃんとこなして単語帳を何周もした方が、自然と頭に入ってくるので良いと思います。最初の方は、忙しかったりやる気がなかったりで毎日続けるのは難しいと感じるかもしれませんが、慣れてくるとスキマ時間を見つけられたり、自分で要領よく進められるようになっていきます。

世界史は教科書や参考書を見ながら流れをつかむことを意識して、声に出して自分で整理しながら覚えました。次にその復習した範囲を問題集で解いて、分からなかった所、自信のない所にふせんを貼って、いつでも確認できるようにしていました。また、一問一答はどこでもできるから便利ですが、流れを覚えてからセンター1、2か月前に見るくらいが効果的だと感じました。

私の場合、二次は実技試験で、勉強はセンターだけだったので、夏休みから過去問を解いて問題の形式に慣れるようにしました。

3 後輩へのアドバイス

まず何よりも日頃の授業や小テスト、定期テストは手を抜かずに頑張ることが一番の近道だと思うし、これだけは間違いないと思います。私は勉強が好きではない、というかもはや嫌いな範疇ですが、それ以上に低い点数を見ることが嫌だったので、高1の時から授業ではちゃんと先生の話聞いてメモをとったり、小テストは毎回満点をとれるように勉強して、定期テストも全教科高得点をとれるように頑張っていました。特に小テストに関しては、部活で忙しい人もスキマ時間を見つけてしっかり勉強することをおすすめしたいです。私は小テストのためだけに単語や文法を覚えるというのでもいいと思っています、1、2年の間に何となく覚えておくだけでも受験期に入ってから負担は大きく減ると思います。定期テストでも同じことが言えます。中でも古漢の単語や品詞、文法、句法、また英語の単語、熟語、文法は力を入れて1、2年のうちに頭に入れておくと、余裕をもって受験勉強に取り組めると思います。

最後に、人それぞれのやり方やペースがあると思うので、焦らずに自分を信じてください。また、早寝早起きと適度な息抜きがものを言います！あまり気負わずにメリハリをつけて自分の体を大切にしてください。そして、あくまでも高校生なので学校生活は存分に楽しんでください。沢山不安があると思いますが、こんなメンタルも体も弱い奴でもなんとか乗り越えられたので大丈夫です。根気！周りの支えてくれている方々に感謝して頑張ってください。応援しています！

Vさん 進学先→京都府立医科大学医学部医学科

1 志望校決定の過程や志望理由

小さい頃から医師になりたいと漠然と考えていましたが、高2の1年間は医・薬・工ですと悩んでいました。女性の医学部の先輩に話を聞いたり、本を読んだり、友達と話したりして医学部志望を固めました。オープンキャンパスで訪れた府立医大の雰囲気が自分に合っていると思い、また臨床教育が充実していると聞いたので府立医大を受験することにしました。

2 学習計画とその内容・方法

学校の授業で習ったことはその場で完璧に身につけるようにしていました。定期考査でも学年1位を目指して勉強しました。ただ、学校は授業（インプット）がメインなので、高3では英語と数学は毎週塾で演習（アウトプット）をしていました。おかげで英語と数学は

苦手意識を持つことなく、長期休みには理科の勉強に集中することができました。高3の夏休みには重要問題集（物理・化学）に取り組み、今まで受けた模試の直しを中心にやりました。その時に府立医大の過去問を1年分解いて（ざっと見て）みましたが、英語は超長文で、物理（特に力学）は手をつけられそうになく、難問揃いの大学とは聞いていたものの、とても不安になりました。ただ、それまでにも英文は多読してきており、他教科も基本が抜けているわけではなかったので自分を信じて突き進みました。模試については駿台全国模試や医進模試だけでなく京大実践模試も受け、試験の経験を積むとともに京大志望の仲間と切磋琢磨することができました。

12月に入ってからセンター対策を本格的に始めました。英語以外の全教科は本試・追試5年分を2回位解きました。理系教科で間違えたところはルーズリーフにまとめ、本番前に見直せるようにしました。地理は問題自体をコピーして思考過程を書き込んでまとめました。センターの過去問はセンター対策において唯一の良問集なので、やりこんで良かったと思います。

センター明けからは学校の先生にみっちり過去問添削をしてもらいました。数学は答えがあっても、論に飛躍があったり、答案が読みにくかったりと、自分では気づかないところを教えてもらいました。物理は私の得意分野を考えながら一緒に戦略を練ってもらい、最後まで、記述答案を書く力とともに物理の実力をのばせたと思います。化学は単科医大特有の問題を個別に用意してもらい、添削を受けました。英語は自由英作文を見てもらっていたのですが、AETのアドバイスも受けていました。東大や京大のように教科別の25カ年問題集があるわけではないので、不安はありましたが、学校の先生方の指導を受けていたのでとても心強かったです。

3 後輩へのアドバイス

私にとって高3という1年間はいわゆる「受験勉強漬けの毎日」では全くなく、今までの人生で1番楽しかった1年でした。高3になって友達と話す時間が増え、学校行事も全力で楽しみました。人によるとは思いますが、受験生こそ人と話す時間を大切にしてほしいと思います。友達とも、家族とも、先生とも、何かしら話して笑いあうことで、1番のストレス解消になりました。

皆さんにも不安はあると思います。そんな時は周りを頼ってください。学校を頼ってください。私に勉強を好きになるきっかけを与え、最後まで質問や添削に親身に応じてくださったのは学校の先生でした。どんな時も私を笑わせてくれたのは学校の友達でした。大丈夫、みんながついています。

最後になりますが、毎日元気に学校に通って、勉強して、やりたいことやって、自分の行

きたい大学に合格してください！皆さんを全力で応援しています!!

Wさん 進学先→東京女子体育大学体育学部体育学科

1 志望校決定の過程や志望理由

私は、中学・高校を通じて打ち込んだ陸上競技での経験を活かし、2年生の後半頃に、卒業後はラグビーを生活の柱に出来る場を求めて進路を定めることに決めました。志望校を決定する上で、まず、意図的にたくさんの選択肢を持ち、比較検討しようと考え、学業や部活動の合間を縫って、資料請求や大学ホームページから情報を入手した上で、遠路はるばる関東や四国の大学に出向き、オープンキャンパスに参加しました。実際に自分の眼で見て、教職員や学生の皆さまの声を聞くことは、その大学で学び、地域で生活をするイメージを高めることに繋がり、志望校決定への意識を高めることに役立ったように思います。

加えて、保健体育科の教師になることを将来の夢として描いていたこともあり、その夢を叶えるために必要なことを満たす条件探しも進路決定の大きな要素となりました。

そのような折、夏休み明けに指定校推薦先が発表され、そこで東京女子体育大学という選択肢を知りました。前述のとおり、多くの選択肢がある中でベストの選択として、また、京都に縁のある方がいらっしゃる神奈川県に所在するラグビークラブでプレーしたいという想いも重なり、同校への進学を希望し、ラグビーをプレーしながら保健体育科教師になるための学びを深めることが出来ると考え受験を決定しました。

2 学習計画とその内容・方法

志望校を検討していた頃は、最も部活動で充実した日々を過ごしていた時期でもあり、11月上旬にあった最後の試合までは、全力で競技に傾注しようと考えていたことから、これまでよりさらに授業の中だけで集中して理解に努め、テスト直前の勉強に力を入れるように努力しました。

入学試験は、志望理由書の事前提出と面接のみであったので、練習や試合の連続の中、時間を見つけては面接での想定問答を考え、文章化する中で自身の考えをまとめ、言葉として相手に意図をきちんと伝えられるようになるまで自問自答を繰り返し行っていました。

3 後輩へのアドバイス

私は3年間陸上競技部に所属していました。毎日どの部活よりも遅くまで練習に取り組み、素晴らしい指導者と仲間恵まれてこれ以上ない環境で競技を楽しみ、自身の心身の成長に繋げることが出来たとふりかえています。言うまでもなく勉強する時間は限られていましたが、だからこそ短時間であっても大切に集中して学習するように工夫と努力を重

ねてきました。

希望する進路や自身の夢を実現する上で、受験勉強はとても大切なことです。一方で、高校生活は一度きりなので、大好きで打ち込んでいる部活動であるならば、ふりかえった時に3年間、精一杯やりきったと言えるようであってほしいです。

今、約1年にわたる進路決定に至る過程を思い返すと、部活動で学んだり経験したりしたことは必ず受験勉強にも繋がっていたと確信しています。今ある高校生活と将来の夢の実現とのバランスを大切に、そして自分自身を信じて頑張ってください！

Xさん 進学先→同志社大学 文化情報学部 文化情報学科

1 志望校決定の過程

私は部活動で全国大会に出場するために洛北高校に入学したので、自分の進路についてはほとんど考えたことがありませんでした。実際に、真剣に考え始めたのは3年になったぐらいでした。その時に、1・2年の時に勉強を頑張ったおかげで多くの選択肢を持てたことは非常に大きかったと思います。私には具体的な将来の夢がなかったので、先輩方から去年の指定校のリストを見せてもらい、その中から学ぶのが面白そう、そこで学びたいと思う学部を選びました。大学を選ぶうえでは、上で挙げたように自分の学びたいことがあるのかどうか大きな要素でしたが、その大学が世間でどのような評価を受けているのかというのも大きな要素だったと思います。

2 学習計画とその内容・方法

私が目指していた指定校推薦のためには高い成績が必要になってきます。なので私はテスト勉強を絶対にさぼらないことを意識していました。絶対に妥協せず、自分が納得するまで、わからないことがなくなるまで勉強をしていました。私はサッカー部に所属していて毎日朝早くから夜遅くまでの練習でなかなか家での勉強のやる気が出なかったりそもそも時間が取れないことが多かったです。なので少ない勉強時間でより高い点数を取るために、勉強方法は数学・物理といった暗記より自分の応用方法が重要になってくる（暗記より理解が必要な）科目や単位数が多くテスト範囲が広がる強化の勉強を優先して行い、他は一夜漬けでやるといったものでした。しかし、完全な一夜漬けではなく授業でとってもらえるテスト勉強の時間に手を抜くことなく勉強していました。また、テストの点数を取るための勉強方法の工夫を二つしていました。一つ目は他人に勉強を教えることです。自分の頭にあることを他人に教える際に言葉にし、外に出すことで自分の知識の再確認ができ、より理解度が深まります。そして二つ目は過去のテストの分析です。ここでの分析は自分の得意不得意の

分析ではなくどのような問題が出ているのかというものです。テスト問題にはその先生の癖が少なからず出てくるので過去の問題用紙と自分のノートや教科書、授業の記憶と照らし合わせて問題を分析すると法則がみえてくることが多いです。そうして問題の傾向をつかむことができると勉強の効率がよくなり無駄な勉強時間を減らすことができます。

3 後輩へのアドバイス

スポーツコースの皆さんは推薦で大学に行くことになると思います。その時、最も重要なのは成績で、成績をとるために最も重要なものはテストです。今行きたい大学や、やりたいことが見つからない人も選択肢が多いに越したことはありません。なので一回一回のテストが大学受験本番の気持ちを持って頑張っておきたいです。進路を決めるとき、あの時もっと頑張っておけばよかったと後悔することのないように文武両道頑張っていってください！

Yさん 進学先→関西学院大学経済学部

1 志望校決定の過程や志望理由

私は高校入学当初は将来の夢はなく、毎日部活と勉強の両立に励んでいました。進路について考えるようになったのは2年の後半で、その時から会計士になりたいと思うようになりました。そのためどの学部に行きたいかは決めていましたが、どの大学にするかを決められずにいました。なので、気になる大学のオープンキャンパスに行き、説明会に参加して色々な話を聞きました。しかし、どの大学にもさまざまな特色があり悩みました。自分でそれぞれの大学について調べたら、関西学院大学にはここにしかない制度や充実したカリキュラムがあり、グローバルな視点を重視しているため留学の制度も整っているため、このような校風に魅力を感じ、ここで経済学を学びたいと強く思うようになったので関西学院大学経済学部を志望しました。

2 学習計画とその内容・方法

私は女子バレーボール部に所属していました。朝昼夕と練習があったので、家に帰って勉強する時間をあまりとることができませんでした。なので、毎日の授業に集中し、先生の話をしっかり聞いて大切なところはメモをとり、テスト勉強をする時に見やすいノートを作ることを心掛けていました。また、テストの時期には必ず2週間前から勉強を始め、提出物を早めに終わらすようにしていました。自分でわかりやすくノートをまとめたり、プリントや問題集を1回は解くようにし、1週間前までには全教科を一通り勉強していました。その時にわからなかった問題に印を付けておき、次に勉強する時に答えを見てでもいいから

自分で考えて問題を解き、わかるまで繰り返し勉強をするようにしていました。それでもわからない問題はそのまましておかず、先生や友達に聞いたりしてわからない問題を残さないようにしていました。私は書かないと覚えられないので、暗記物やわからない問題などを必ず1回は違うノートやプリントに書くようにしていました。このように自分の苦手や弱点を早く知ること、自分にあった効率の良い勉強方法を早く見つけることができると思います。

3 後輩へのアドバイス

自分の進路を決めることは、決して簡単なことではないと思います。将来の夢や目指している事を決めていても、進路について考えた時に悩んだり迷ったりする人がいるはずで、そんな時に選択肢がたくさんあれば自分が納得する進路を決めることができると思います。そのためにも、3年生になってから受験のために勉強を始めるのではなく、1年生の時から受験を意識してコツコツ勉強をすることが大切です。また、部活をしている人は勉強との両立が大変だと思います。実際私も、朝早くから夜遅くまで部活をしてから家に帰って毎日勉強することはできませんでした。なので、限られた時間の中で自分は何がしたいのか、何が必要なのかを考え、時間を有効に使ってほしいです。

高校3年間はあっという間に過ぎていきます。今しか出来ないこともたくさんあるので、今を思いっきり楽しんでください。そして、自分の理想の進路を実現させられるように頑張ってください。応援しています！

Zさん 進学先→関西学院大学社会学部社会学科

1 志望校決定の過程

私は入学当初から2年の終わりまで自分の進路について何も考えておらず、ただ部活と勉強を両立させることを目標に毎日過ごしていました。3年に進級してからクラスのみならず進路について真剣に考え始め、それにつられるように私も進路について考えるようになりました。自分の進路を考えていくうちに将来社会科の教師になりたいと思うようになり、教師になるために必要な能力を養うことができ、また教員免許を取得するための環境が整っている関西学院大学社会学部を志望しました。

2 学習計画とその内容・方法

私は硬式野球部に所属し、朝早くから夜遅くまで練習していました。そのため家で勉強する時間をあまりとることができませんでした。しかし、指定校推薦で大学に進学するため

には高い評定平均が必要で何としてもテストでいい点を取らなければなりません。限られた時間の中、テストで良い点を取るために私は毎日の授業をしっかりと聞き、大事なところはメモを取り、テスト勉強の時に見やすいノートを作り、出来るだけ勉強を学校内(授業)で完結させることを心掛けました。また、私はテスト1週間前から勉強を始めても暗記することができないので、2週間前くらいから登下校の電車と寝る前の数分を使って暗記系の科目の勉強を始めるようにしていました。テスト1週間前になり、部活がオフになると最後まで学校に残り暗記系の科目は細かいところまで覚えるようにし、物理などの理系科目はかなり苦手だったため、基礎の問題と授業でテストに出ると宣言された問題に照準を絞って勉強するようにしていました。学校に残って勉強することにより、わからない問題をすぐに友達や先生に聞くことができ、逆に友達がわからない問題を教えることで自分の理解をより深めることができます。それに加えて学校にはテレビや漫画など勉強への集中力を削ぐものが少なく静かなので、テスト勉強する環境としてはお勧めかなと思います。

3 後輩へのアドバイス

3年になってから受験について考え始めるのではなく、1、2年の時からある程度意識して学校生活に取り組んだほうが良いと思います。自分の進路を決めるのは難しいことなので、大学で学びたいことや将来の目標を決めている人は少ないと思いますが、3年になったときにこの大学の指定校推薦を取りたいと思って勉強を頑張り始めても1、2年の成績が低くて第一志望の大学に外れる人が僕を含めてたくさんいました。もっと成績を取っておけばよかったと後悔する前に毎日授業に集中し、わからないことがあれば、そのままにするのではなく先生や友達に聞くなど積極的に取り組んでください。

部活と勉強の両立は肉体的にも精神的にもとてもしんどいので、プライベートの時間は友達と遊んだり、映画を見たり自分の好きなことをしてしっかりリフレッシュすることも大切だと思います。高校生活の3年間はあっという間に過ぎていくので、部活・勉強・遊び、どれも悔いが残らないように全力で頑張ってください。応援しています。